

2020年3月期 第3四半期 決算説明資料

- | | |
|------------|---------------------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 商品群別売上高 | 8) 通期業績見通し |
| 4) 国内売上高 | [参考] 商品群別売上高見通し/
為替の影響 |
| 5) 海外売上高 | |



日本光電工業株式会社

銘柄コード: 6849

2020年2月3日

1) 決算概要

	2019/3 第3四半期 累計	2020/3 第3四半期 累計	増減率 (%)	(単位: 百万円、単位未満切捨て)
売上高	120,227	129,525	7.7	
国内売上高	87,568	94,387	7.8	
海外売上高	32,659	35,137	7.6	← 為替影響除く: +11%
売上総利益 (売上総利益率)	58,627 48.8%	63,039 48.7%	7.5	← 自社品 売上比率: 2018/12 64.0% → 2019/12 65.0%
営業利益 (営業利益率)	6,365 5.3%	8,396 6.5%	31.9	← 販管費率: 43.5% → 42.2%
経常利益	7,143	8,108	13.5	← 為替差損益: 2018/12 為替差益 190百万円 → 2019/12 為替差損 511百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,986	4,832	△ 3.1	← 【特別損失】 和解金 2019/12 520百万円 事業所移転費用 178百万円
平均レート	(2018/12)	(2019/12)		
1米ドル	110.7円	109.0円		
1ユーロ	129.4円	121.3円		

- 売上高は7.7%増の1,295億円となりました。
- 国内売上高は、7.8%増の943億円となりました。新製品の投入や顧客価値提案の推進が奏功し、全ての市場、全ての商品群で増収となりました。
- 海外売上高は、7.6%増の351億円、現地通貨ベースでは11%増加しました。全ての地域、全ての商品群で増収となりました。特に、米国での売上が、受注・納品の平準化に取り組んだ成果もあり、大幅に伸長しました。
- 営業利益は、増収効果により、31.9%増の83億円となりました。粗利率は、自社品販売の注力により商品ミックスは良化したものの、売価ダウンが影響し、48.7%となりました。
- 経常利益は為替差損の計上により13.5%増の81億円、純利益は特別損失の計上により3.1%減の48億円となりました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 7.7%増

- ・国内:新製品を相次いで投入するとともに、顧客価値提案の推進、保守サービス事業の強化に注力し、全ての市場、全ての商品群で増収。
- ・海外:全ての地域、全ての商品群で増収を確保。

営業利益：前年同期比 31.9%増

- ・増収効果により、人件費等の販管費の増加を吸収し、二桁増益。
- ・自社品売上比率向上も売価ダウンが影響し、粗利率は0.1%ポイント低下。

純利益：前年同期比 3.1%減

- ・為替差損益が差損に転じる。
- ・和解金や事業所移転費用等の特別損失を計上。

3) 商品群別売上高

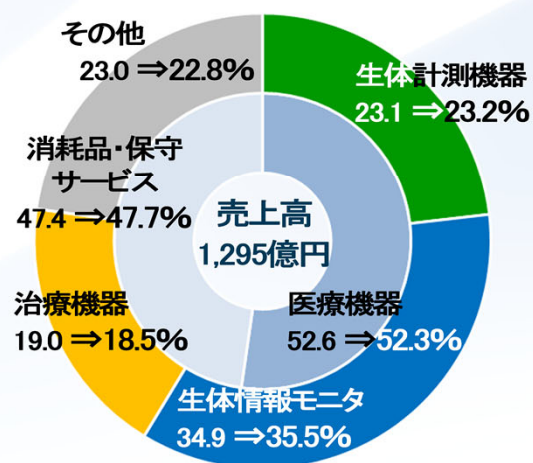
(単位:百万円)

	2019/3 第3四半期 累計	2020/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	27,776	30,002	8.0
生体情報モニタ	41,933	46,008	9.7
治療機器	22,894	24,019	4.9
その他	27,624	29,494	6.8
売上高合計	120,227	129,525	7.7

(ご参考)

消耗品・保守サービス	56,956	61,804	8.5
------------	--------	--------	-----

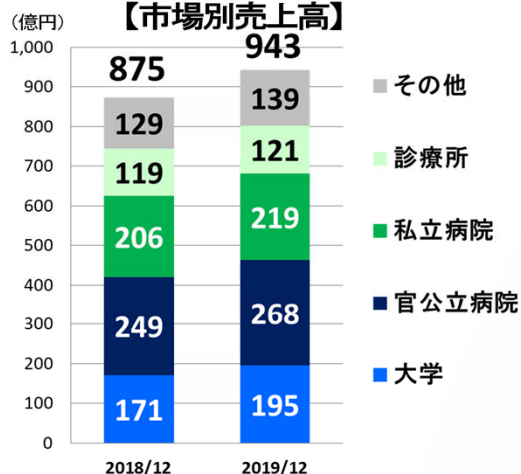
商品群別売上構成比
(2018/12 ⇒ 2019/12)



- 生体計測機器は前期比8.0%増の300億円、
生体情報モニタは9.7%増の460億円、
治療機器は4.9%増の240億円、
その他は6.8%増の294億円となりました。
- 消耗品・保守サービスも堅調に推移し、売上構成比率は47.7%となりました。

4) 国内売上高

【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2019/3 第3四半期 累計	2020/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	21,789	23,607	8.3
生体情報モニタ	25,567	28,521	11.6
治療機器	15,916	16,900	6.2
その他	24,294	25,357	4.4
売上高合計	87,568	94,387	7.8

【市場別】 全ての市場で増収。大学、官公立病院市場において新築移転に伴う大口商談を受注したこと、消費税率引上げ前に一定の駆け込み需要があったことも売上に寄与。

【商品群別】 生体計測機器: 心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが好調。心電計群も増収。脳神経系群は前年同期並み。
生体情報モニタ: ベッドサイドモニタの新製品効果や臨床情報システムの更新商談の増加もあり、好調に推移。
治療機器: 大口商談の受注もあり、除細動器、人工呼吸器が大幅に伸長。AEDは、販売台数は増加するも、消耗品が減収。
その他: 検体検査装置の新製品が寄与。医療機器の設置工事、保守サービスも好調に推移。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

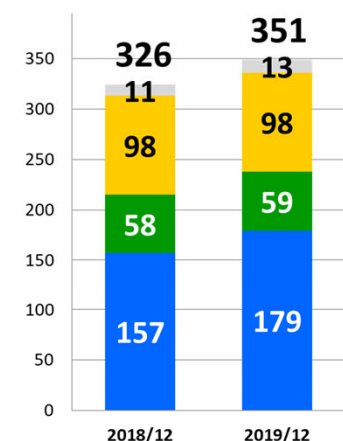
NIHON KOHDEN

4

- 国内売上高は、68億円増の943億円となりました。
- 消費税率引き上げ前に一定の駆け込み需要があったことから、全ての市場で増収となりました。特に、大学、官公立病院市場が、新築移転商談やITシステムの更新商談もあり、好調に推移しました。
- 第3四半期の会計期間では、駆け込み需要の反動により、全ての市場で前期を下回りました。特に、診療所市場が低調でしたが、画像診断装置など他社品が減収となった影響が大きく、商品ミックスは改善しました。また、上期に医療機器の設置が進んだことが、第3四半期における消耗品・保守サービスの増収につながっています。
- 生体計測機器では、心臓カテーテル検査装置群、診断情報システムが好調に推移しました。心電計群も堅調でしたが、脳神経系群は前期並みにとどまりました。
- 生体情報モニタでは、医用テレメータなどの新製品効果に加え、臨床情報システムの更新商談が増加し、好調に推移しました。
- 治療機器では、大口商談の受注もあり、除細動器、人工呼吸器の売上が大幅に伸長しました。AEDは、販売台数は増加したものの、バッテリーなど消耗品が前期を下回ったことから、減収となりました。
- その他では、診療所向けの検体検査装置の新製品が売上に寄与したほか、医療機器の設置工事、保守サービスも好調でした。

5) 海外売上高

【地域別売上高】



■ その他：前年同期比 +20%
(為替影響除く: +22%)

■ アジア州：前年同期比 +0%
(為替影響除く: +4%)

■ 欧州：前年同期比 +1%
(為替影響除く: +7%)

■ 米州：前年同期比 +14%
(為替影響除く: +16%)

【海外売上高比率】

2019/3 第3四半期累計	2020/3 第3四半期累計
27.2%	27.1%

【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2019/3 第3四半期 累計	2020/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	5,986	6,394	6.8
生体情報モニタ	16,365	17,487	6.9
治療機器	6,978	7,119	2.0
その他	3,329	4,136	24.3
売上高合計	32,659	35,137	7.6

為替影響除く: +11%

【地域別】 米州：米国は年間を通じての受注・納品の平準化に努めたこともあり大幅に伸長。中南米は堅調に推移。
 欧州：ドイツ、イタリアが堅調に推移したほか、トルコでの売上が回復。
 アジア州：インドが好調に推移。サウジアラビアにおける生体情報モニタ商談の受注も寄与。中国は前年同期を下回る。
 【商品群別】 生体計測機器：脳神経系群が米州で好調に推移。心電計群はアジア州で前年同期を下回る。
 生体情報モニタ：全ての州で前年同期を上回る。特に、米国が二桁増と好調に推移。
 治療機器：AEDが米国、アジア州で好調に推移。除細動器はアジア州で前年同期を下回る。
 その他：新興国市場での販売・サービス活動の強化や政府入札案件の受注が奏功し、血球計数器の売上が大幅に伸長。

- 海外売上高は、24億円増の351億円、現地通貨ベースでは11%増加しました。海外売上高比率は27.1%となりました。
- 米州では、米国で年度末に集中しがちな納品作業の前倒し、平準化に取り組んだ結果、生体情報モニタ、脳神経系群ともに売上を大きく伸ばしました。中南米は、代理店の見直しを進めたチリなどを中心に堅調に推移しました。
- 欧州は、生体情報モニタの新製品効果により、ドイツ、イタリアが堅調に推移したほか、トルコでの売上が回復しました。
- アジア州は、インドが好調に推移し、サウジアラビアでの大口商談も売上に寄与しました。中国は現地通貨ベース、円ベースともに、前期を下回りました。中国は12月決算であり、第4四半期は年度末予算の活発化により回復する見込みです。通期では、現地通貨ベースで一桁半ばの増収、円ベースで前期並みの見通しです。
- 新型コロナウイルスに関連して、上海光電では生産再開を2月10日以降に延期しています。感染の拡大を受けて、中国各地で設備増強の動きがあり、生体情報モニタ、除細動器、心電計の注文に在庫で対応しています。業績への影響は来週以降に確認する予定です。

6)トピックス

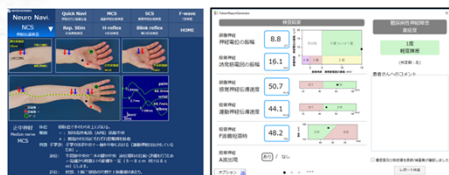
2020年3月期発売の主な新製品

臨床検査機器事業

筋電図・誘発電位検査装置 MEB-9600

Q3: 日本

- ・ 充実したガイド機能で、検査の効率化をサポート
- ・ 患者さんへの説明用に糖尿病性神経障害レポート機能を搭載



心電計 ECG-3150

Q1: 日本、欧州、新興国

治療機器事業

人工呼吸器 NKV-550

Q2: 新興国、Q3: 欧州

- ・ Q4米国発売
- ・ 生体情報モニタとの相乗効果を期待



人工呼吸器 NKV-330

Q1: 日本、欧州、新興国



除細動器 EMS-1052

Q2: 日本
Q3: 欧州、新興国



生体情報モニタリング事業

スポットチェックモニタ SVM-7200

Q1: 日本、欧州、新興国、Q3: 米国
※ 日本はコンティニューアス・モードのみ



ベッドサイドモニタ PVM-4000

Q1: 日本、欧州、新興国



医用テレメータ WEP-1400

Q2: 日本

※ 許認可申請の審査期間等によって、各国での実際の発売時期は異なります。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

6

- 第3四半期には、筋電図・誘発電位検査装置 MEB-9600を発売しました。操作に不慣れな医療従事者でもスムーズに検査を行えるよう、ガイド機能を充実させました。また、糖尿病による神経障害の有無や程度を神経の電気刺激で調べる検査で、患者さんに重症度を分かりやすく説明するためのレポート機能を搭載しました。
- 人工呼吸器 NKV-550は、米国の日本光電オレンジメッドで開発・生産し、新興国、欧州で発売済ですが、2020年1月に米国でも発売しました。2019年11月に開催されたAARC(米国呼吸療法学会)で展示したところ、多くのお客様から期待を寄せられました。生体情報モニタとの相乗効果で、米国事業の拡大を図っていきます。
- さらに、第3四半期から、救急車搭載除細動器 EMS-1052を欧州、新興国、スポットチェックモニタ SVM-7200を米国で発売しています。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2019/3 第3四半期 累計	2020/3 第3四半期 累計	増減額	2019/3 前期実績	2020/3 予想	
					期初	11月5日 修正
減 価 償 却 費	2,550	2,611	61	3,542	3,900	3,800
研 究 開 発 費	5,459	4,758	△ 700	7,243	7,600	7,200
設 備 投 資 額				3,049	4,700	4,600

【2020/3期 設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、ドバイ試薬工場(2億円)、東日本物流センタ(4億円) →企画賃貸型のため、投資は移動ラックなど物流設備のみ

- 減価償却費は前期比6千万円増の26億円、研究開発費は7億円減の47億円となりました。通期の減価償却費は38億円、設備投資は46億円に変更ございません。
- 研究開発費は72億円を下振れる一方、維持改良費は上振れる見込みであり、販管費全体では計画内となる見通しです。
- 維持改良費につきましては、更新需要が見込まれる臨床情報システムのバージョンアップや新製品の機能追加にかかる工数を見込んでいます。

8) 通期業績見通し

	2019/3 前期実績	2020/3 予想			増減率 (%)
		期初	6月17日修正	11月5日修正	
売上高	178,799	186,000	186,000	186,000	4.0
国内売上高	130,223	133,000	133,000	134,500	3.3
海外売上高	48,575	53,000	53,000	51,500	6.0
売上総利益 (売上総利益率)	85,987 48.1%	90,200 48.5%	90,200 48.5%	89,800 48.3%	4.4
営業利益 (営業利益率)	15,044 8.4%	16,000 8.6%	16,000 8.6%	16,000 8.6%	6.4
経常利益	15,867	16,000	16,000	16,000	0.8
親会社株主に帰属する 当期純利益	11,191	11,000	10,700	10,700	△ 4.4
海外売上高比率	27.2%	28.5%	28.5%	27.7%	
平均レート					
1 米 ド ル	110.8円	108円			
1 ユ ー ロ	128.5円	125円			

← 為替影響除く: +9%

【地域別海外売上高】

	2019/3 前期実績	2020/3 予想		増減率 (%)
		期初	11月5日修正	
米 州	23,508	25,500	24,600	4.6
欧 州	8,167	8,900	8,600	5.3
アジア州	15,096	16,000	15,600	3.3
そ の 他	1,802	2,600	2,700	49.8
海 外 計	48,575	53,000	51,500	6.0

※第4四半期の前提為替レートは109円/米ドル、120円/ユーロです。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

8

- 通期の業績予想については、変更ありません。
- 国内売上高は1,345億円に変更ありません。上期の大幅増収を受け、第3四半期と同様、第4四半期も反動減の影響が続きますが、影響は徐々に和らぐと見込んでいます。大学、官公立病院での更新需要を着実に捉えるとともに、ベッドサイドモニタ、人工呼吸器、救急車搭載除細動器などの新製品の拡販に努め、通期計画の達成を目指します。
- 海外売上高についても515億円に変更ありません。米州は、計画を若干上振れる見通しです。米国は、生体情報モニタ、脳神経系群の堅調な受注を背景に、期末集中を避けるため、納品作業の前倒し、平準化に努めたこともあり、第4四半期は前期を下回る見通しです。昨年11月の時点では、中位機種ベッドサイドモニタの新製品の投入が遅れた影響を10億円と見ていましたが、既存製品の競争力が維持されており、現時点では、さほどの影響はないと見ています。欧州は、新製品効果により生体情報モニタは好調に推移しているものの、第3四半期の不足をカバーできず、計画を若干下振れる見通しです。アジア州につきましても、第4四半期は、インド、中近東が好調で、中国も回復基調にありますが、第3四半期の不足をカバーできず、計画を若干下振れる見通しです。
- 利益については、営業利益160億円、経常利益160億円、純利益107億円に変更ありません。
- 粗利率については、通期見通し48.3%に変更はありません。3カ月の会計期間では、ほぼ自社品のみを扱う海外の比率が高まったこと、国内の減収の過半が粗利率の低い他社品だったことから商品ミックスが良化し、前年同期を1%ポイント上回っています。引き続き、生産コストの低減、自社品販売に注力し、改善に努めます。
- 国内・海外ともに3月に売上が集中しますが、生産・納品対応を万全な体制で臨み、売上、利益の達成に努めます。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

(単位: 百万円)

	2019/3 前期実績	2020/3 予想			増減率 (%)
		期初	11月5日修正	構成比(%)	
生体計測機器	40,773	41,700	41,850	22.5	2.6
生体情報モニタ	61,978	66,150	64,500	34.7	4.1
治療機器	33,149	34,250	34,750	18.7	4.8
その他	42,898	43,900	44,900	24.1	4.7
売上高合計	178,799	186,000	186,000	100.0	4.0

(ご参考)

消耗品・保守サービス	79,226	83,000	83,100	44.7	4.9
------------	--------	--------	--------	------	-----

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米 ド ル	3.1億円	0.9億円
ユ ー ロ	0.5億円	0.2億円

- 通期の商品群別の売上高予想については、ご覧のとおりです。
- 第3四半期累計期間までの進捗状況を踏まえると、現時点では、11月5日の修正計画に対し、生体情報モニタは上振れ、その他商品群は下振れると見ています。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】Tel03-5996-8003

